

目標の進捗状況報告書

(2012年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

対象部局	経済学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
小項目	6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。
要素	学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示
小項目	6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。
要素	教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示
小項目	6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。
要素	周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 目標の進捗評価と進捗状況報告(2012.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。

進捗評価はA、B、C、Dの4段階とし、2012年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 学部・大学院5年一貫のカリキュラム体系を設置し、教育の質を高め、早期卒業制度を利用し、学士号と修士号の授与者数を現在の1名から5年後に5名へ増やす。	→学士号と修士号の授与者数。	B	B	B		
2. ジョイント・ディグリー制度を活用し、他学部から優秀な学生を入学させ、2つの学士号の授与者数を現在の1名から5年後に5名へ増やす。	→ジョイントディグリー制度を利用して他学部から経済学部に入学者数とその学生のGPA。および、学士号の授与者数。	B	B	B		
3. 現行の8コース制を5コース制へ再編成し、各コースごとに学部・大学院合併科目(中級・上級科目)を新設する。そして、上位科目の履修者を増やし、KG経済学士力を向上させる。	→学部・大学院合併科目(中級・上級科目)の履修者数とその平均点。	B	B	B		
4. HPを利用して、新しい5つのコース制や学部・大学院一貫制に基づく新カリキュラム体系を公表し、社会にKG経済学士力の内容を周知させる。	→HPの作成・更新とアクセス数。	C	B	A		
		☆				
2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況》

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

目標1	3年間で卒業単位を満了し合格科目の平均点が80点以上者による早期卒業制度であるが、2012年3月卒業者は4名であった。しかし法学部への編入学であり、大学院（経済学研究科）に進学した者はいなかった。
目標2	ジョイントディグリー制度により他学部へ4名が編入学したのに対し入学者は0名である。経済学部へ入学するメリットを再確認し分析することが必要である。
☆ 目標3	8コース制から5コース制への再編および科目のコード化によるカリキュラム改革は2012年度入学者より導入することができた。今後はコード化に沿うシラバス作成の検討が必要である。
目標4	2012年度からの新カリキュラム体系はホームページへアップされたほか、経済学部小冊子「学部読本」でも紹介されている。また、各コース別の標準履修モデルを作成し、ホームページで紹介している。
備考	